

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	社会福祉法人楽山会 第二稚の実子供の家
施設所在地	三鷹市上連雀 6-25-31
日時	2025年2月25日

1. 活動テーマ

<テーマ>

『自然』～小さな世界、大きな世界～

<テーマの設定理由>

- ・保育室で飼育している虫や熱帯魚に興味を持ち、観察したり、世話したり姿がある。
- また、園庭の草木に集まって来る虫や生き物を捕まえて触れることを喜んだり、虫の種類や生態に興味を持っている。

2. 活動スケジュール

<虫・生き物との出会い> 4～11月

- ・保育室や園庭、散歩先にいる虫を捕まえる。
- ・虫や生き物を観察する。

<虫・生き物を育てる> 6月～10月

- ・捕まえた虫を虫かごで飼育する。

<虫・生き物のことを知る> 4～2月

- ・虫や生き物の観察をする。
- ・種類や生態を図鑑やタブレットなどを使って調べる。

3. 探究活動の実践

<活動の為に準備した素材や道具、環境の設定>

・ipad ・カメラ ・拡大鏡 ・電子黒板 ・図鑑 ・絵本 ・色鉛筆 ・画用紙

<活動の内容>

- ・9月から飼育しているカブトムシの幼虫を観察する。
- ・拡大鏡を使い、虫の細かなところまで観察を楽しんだり、電子黒板を通して同じ虫の様子を見ることで友達や保育者と発見を共有したりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり>

- 拡大する前の幼虫を見て「大きい！」「うねうねしてる」と虫が置いてある机のまわりに子ども達が集まる。
- 拡大した後の幼虫を電子黒板の画面を見て「もっと大きくなった！」と驚いていた。



- 「足って何本あるんだろう？」「僕知ってるよ、6本だよ」
保育者が幼虫の足を示しながらみんなで幼虫の足を数える。
全部で6本あったことに気づいた。
- 「体にある点々はなんだろう？」「なにか意味があるのかな？」
「iPad で調べてみたらいいんじゃない？」
保育者が調べると幼虫の体にある点々は気孔（気門）ということがわかった。
- 「赤い毛が生えているね」「どうして毛が生えているの？」「ふさふさだ」
保育者が調べると“体毛で回りの様子を感知している”ことがわかった。
- 観察していると、幼虫がウンチをした。
「うによってウンチが出てきた！」「びっくりした」
「幼虫さんのお尻も拭いてあげなきゃいけないね」
→実際にペーパータオルを持ってきてウンチを拾って幼虫がいる机の上を綺麗にする姿が見られた。
- 幼虫が土の中へ潜っていく様子を拡大鏡を通して観察する。

「頭から潜っていくんだね」「見えなくなっちゃう。ばいばーい」
「こうやって潜っていくんだ」「初めてみたよ」



- 子どもたちから「絵を描きたい」という声が上がったため、色鉛筆と画用紙を用意して自由に描くスペースを作った。細かなところまで、じっくりと観察をして描くことを楽しんでいた。大きな幼虫を見ることで、自然と画用紙いっぱい大きな絵を描いていた。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 手元にいる幼虫と画面に映し出された幼虫を交互に眺めていた。大きく拡大することでどの子も見やすい・観察しやすい環境を作ることができるが、実物を「見てみたい」という気持ちもあることがわかった。
- 絵を描くことを苦手とする子が多いクラスだったが、幼虫が大きく見えることで「描いてみたい」という意欲がわいているようだった。細部まで細かく描くことができていた。
- 今回、子ども達から「iPadで調べてみたらいいんじゃない？」という声が聞かれた。子ども達にとってもiPadやスマホは身近なものであり、調べるツールの1つであるのだと感じられた。
- 今回の題材は自然ということで虫を観察したが、他にも木の実や葉っぱ、花なども観察題材にしてみたいと思った。